

手術現場をライブ中継

光ファイバーで神戸の会議へ

鈴木・豊橋ハート
センター院長
鈴木

国内外の心疾患治療第 会場で開幕。主催者の一人者約三千人が集ま一人で、中心的役割を担り、最先端技術など研究う豊橋市大山町の専門病する国際ライブ研究会院、豊橋ハートセンターが、十三日まで神戸国際 鈴木孝彦院長は会期中、



鈴木院長①の手術現場が光回線で神戸へ

同会議場と病院を往復。病院からは通称・風船治療や心臓バイパス手術などを、同会議場へライブ中継している。

心疾患研究ライブ会議

は、十年前に鈴木院長が発起人と主として豊橋で行ってきた。今回からは、さらに内容充実し過去最大規模の取り組みとなった。これまでは衛星中継

だったが、今回からは同病院が新設した光ファイバーを利用。大阪の専門業者が大型中継車二台を使い、病院の手術現場を国際会議場へ送信。

同会議場では内外の専門医らが、大型スクリーンに映し出される手術室の様相を、同時通訳付きで見学。このライブアモは、滋賀県立成人病センター、京都桂病院でも行われた。オペレーターの解説や見学者との討論も活発で、クローバルなライブ研究が進められた。

最終日の十三日は、会議場でシンポジウムがあり、最新情報や研究発表、フリー討論などが行われる。

(豊野のりこ)